

1 コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社

	各社の考え方
① 算定を行う背景・目的	<ul style="list-style-type: none"> ● コカ・コーラ社製品の製造、輸送、販売、回収、リサイクル等を担当する弊社グループは、日本の1都2府35県をカバーする国内最大のボトリング会社であり、GHG排出量削減に向けてコカ・コーラシステム全体のサプライチェーン排出量の全体像を俯瞰した上で、日本コカ・コーラ(株)との緊密な協力体制のもと、効率的な戦略を策定し推進しています。 ● GHG排出量を「見える化」することにより、ステークホルダーとともに、GHG排出実態を把握・共有し、削減へ向けた対応策の検討をしていきます。
② 算定結果の活用方法	<ul style="list-style-type: none"> ● CDP (Carbon Disclosure Project) 、DJSI (Dow Jones Sustainability Indices) をはじめとする各種調査、弊社ウェブサイト、CSVレポートの刊行物等で公開しています。 ● GHG排出量削減に向けた具体策の検討に活用しています。
③ 算定のメリット	<ul style="list-style-type: none"> ● 製品のライフサイクルにおける各プロセスごとのGHG排出量が明確になり、弊社グループが取り組むべき部分と、コカ・コーラシステム全体で取り組むべき部分が可視化されました。 ● 環境負荷の高いカテゴリが把握でき、今後取り組むべき課題が明確になりました。
④ 社内の算定体制	<ul style="list-style-type: none"> ● 弊社グループにおいて清涼飲料事業の中核会社となるコカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社のCSV推進部が主管となり、製造や物流、販売機材などの各部門と連携し、データの収集、算定に取り組んでいます。 ● CSVレポートに掲載した一部の指標は、算定の妥当性に関して第三者による限定的保証を受けています。

2 コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社

	各社の考え方
<p>⑤ サプライチェーン 排出量の削減に 向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 弊社グループは2019年に持続可能な社会の実現に向け、水・気候変動・廃棄物ゼロ社会などの8つのカテゴリーからなる独自の非財務目標「CSV Goals」を明示し、なかでも気候変動に関しては2030年までにGHGを25%削減（2015年比）、廃棄物ゼロ社会の実現に関しては2030年までにすべての製品にリサイクルPET樹脂を90%採用するなど、化石燃料の使用をゼロにする目標の達成に向けて活動を推進しています。 ● 全世界のコカ・コーラ社で、CO₂排出について目標を共有しており、「原材料」「容器包装」「製造」「物流」「販売」の5つのプロセスでの排出量を計測し、米国のザ コカ・コーラ カンパニーに報告しています。全世界においても、2030年までに2015年比で25%削減することを目標に掲げ、活動を推進しています。
<p>⑥ サプライチェーン 排出量算定の 課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 2030年以降の長期目標を策定し、日本のコカ・コーラシステム全体で目標達成に向けた取り組みを開始することを喫緊の課題と捉えています。 ● 基幹システムを導入し、集計業務などの効率を上げ、より精度の高いデータ収集をしていくことが課題として挙げられます。
<p>⑦ その他 (任意)</p>	

3 コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社

※CO2排出データ算出期間：2019年1-12月

カテゴリ	算定方法	※算定対象期間：2019年1月～2019年12月	
	活動量	原単位	
カテゴリ1「購入した製品・サービス」	● 原材料・資材の調達量（重量ベース）	● The Coca-Cola Company によるEmissions Factors に基づく	
カテゴリ2「資本財」	● 有形固定資産額の当年度増加額（純額）	● 資本財の価格あたりの排出原単位 （※1:排出原単位データベース<Ver2.4>）	
カテゴリ3「Scope1,2に含まれない燃料およびエネルギー関連活動」	● 燃料・電気・熱の使用量	● 燃料調達時の排出原単位 （※1:排出原単位データベース<Ver2.4>）	
カテゴリ4「輸送、配送（上流）」	● 外部委託の輸送による燃料の使用量	● 「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアルVer1.2」を参考に、日本のコカ・コーラシステムが定めた値を使用	
カテゴリ5「事業から出る廃棄物」	● 廃棄物の重量もしくは費用	● 廃棄物種類・処理法別の排出原単位 （※1:排出原単位データベース<Ver2.4>）	
カテゴリ6「出張」	● 社員の出張に伴う支払費用	● 交通費支給額あたりの排出原単位 （※1:排出原単位データベース<Ver2.4>）	
カテゴリ7「雇用者の通勤」	● 社員の通勤に伴う支払費用	● 交通費支給額あたりの排出原単位 （※1:排出原単位データベース<Ver2.4>）	
カテゴリ8「リース資産（上流）」	● 該当なし	● 該当なし	
カテゴリ9「輸送、配送（下流）」	● 該当なし	● 該当なし	
カテゴリ10「販売した製品の加工」	● 該当なし	● 該当なし	
カテゴリ11「販売した製品の使用」	● 該当なし	● 該当なし	
カテゴリ12「販売した製品の廃棄」	● 容器包装リサイクル法に基づき申請した容器包装のリサイクル重量	● 廃棄物種類・処理法別の排出原単位 （※1:排出原単位データベース<Ver2.4>）	
カテゴリ13「リース資産（下流）」	● 販売機材（飲料自販機）の電力使用量	● 自動販売機1台当たりの年間電力使用量に当年度の稼働台数を乗じて算出。（※2）	
カテゴリ14「フランチャイズ」	● 該当なし	● 該当なし	
カテゴリ15「投資」	● 該当なし	● 該当なし	

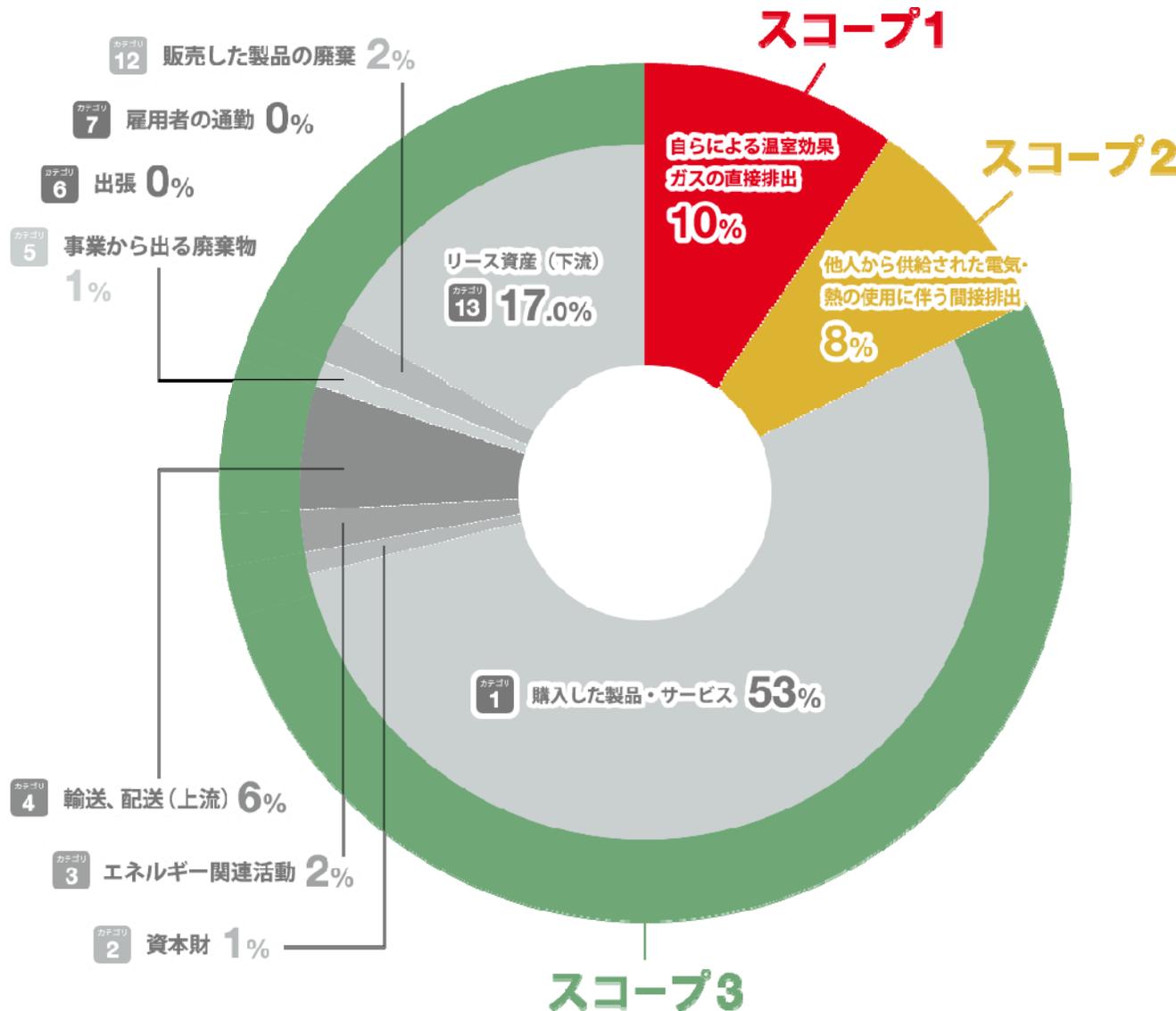
※1:サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース<Ver2.4>

※2:電気の排出係数は一律0.421kg-CO₂/kWhを採用

4 コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社

※CO2排出データ算出期間：2019年1-12月

サプライチェーン排出量算定結果



CO₂排出実績 (t-CO₂)

スコープ1:	191,551
スコープ2:	157,019
スコープ3:	1,654,555
総量	2,003,125

5 コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社

参考資料

世界のコカ・コーラでは、算出項目を「原材料」「容器包装」「製造」「物流」「販売」の5つのプロセス毎に設定しています。日本における各プロセスの算出項目は下記のとおりです。

- 日本での算出項目
 - 原材料： 甘味料（サトウキビ、トウモロコシ、テンサイ）、オレンジ、レモン、アップル、マンゴー、コーヒー、茶、CO₂ (原材料)、ミルク
 - 容器包装： ペットボトル、ガラスボトル、アルミ缶、スチール缶、紙パック、缶ふた、キャップ、王冠、ラベル、段ボール
 - 製造： 購買電力、A重油、都市ガス、天然ガス、LNG、LPG
 - 物流： 車両輸送（ガソリン、軽油、LPG、CNG）、鉄道輸送、船舶輸送
 - 販売： 購買電力（クーラー、自動販売機、ディスプレイ）